

令和4年度第3回 岡山県スポーツ推進審議会の議事概要

【開催概要】

- 日 時 令和5年2月10日（金）10:00～11:30
- 会 場 ピュアリティまきび 3F 飛翔の間（岡山市北区下石井 2-6-41）
- 出席者 <委員（五十音順）>
 - 米谷会長、赤木委員、上田委員、坂本委員、泉水委員、
 - 三宅委員、森委員、山口委員
 - ※委員 15 人中 8 人の出席であり、本審議会は成立
- <事務局>
 - 環境文化部：佐藤環境文化部長、有田文化スポーツ振興監、
 - 岡本マラソン事務局参与、宮野スポーツ振興課長
 - 保健福祉部：坂本障害福祉課長
 - 教 育 庁：山本保健体育課長

1 開 会

2 あいさつ

○環境文化部長あいさつ

- ・ 昨年秋から本県のスポーツは大変明るい話題が相次ぎ、3年ぶりの岡山マラソン開催、ファジアーノ岡山もあと一歩で昇格という大活躍を見せてくれた。
- ・ 年末には全国高校駅伝男子において、倉敷高校が全国優勝し、年明けには、全国高校サッカー選手権で学芸館高校が岡山県勢初の全国制覇を飾った。
- ・ 県としてもスポーツ振興施策を着実に進めていきたいと思っている。
- ・ 本日は来年度からの本県スポーツ振興施策の基本となる第2次岡山県スポーツ推進計画について、最終案をお諮りするとともに、スポーツの推進に係る来年度の主な事業についてご報告をさせていただく。限られた時間ではあるが、忌憚のないご意見を頂戴したい。

3 議 事

※資料に沿ってまとめているため、必ずしも発言順ではない。

（1）第2次岡山県スポーツ推進計画の最終案について

資料1 P. 1～2、最終案（別冊）

■事務局説明（スポーツ振興課長）

- ・ 資料に沿って説明

■質疑等

なし

最終案を審議会の答申とすることについて、各委員の同意を得る。

(2) 令和5年度スポーツの推進に係る主な事業について

資料1 P. 3～9

■事務局説明（スポーツ振興課長、障害福祉課長、保健体育課長）

- ・資料に沿って説明

■質疑等

①P. 3 ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の促進、P. 7 体育授業スペシャルサポーター派遣事業関係

(委員)

- ・幼児期指導者の派遣及び体育授業スペシャルサポーターの派遣について、それぞれどういう方を派遣する見通しか。

(スポーツ振興課長)

- ・幼児期指導者の派遣については、これまで行っているアクティブチャイルドプログラムを受講された方を想定しており、講座で得たノウハウをさらに広げていくことをイメージしている。

(保健体育課長)

- ・体育授業スペシャルサポーターの派遣については、小学校の学習指導要領に理解を持っている方を想定している。具体的には、大学生、大学院生、スポーツクラブインストラクター、競技団体役員、元教員をイメージしており、教員を目指している大学生に協力いただくことが多い。

②P. 8 「部活動の地域移行」推進事業関係

(委員)

- ・地域連携ではなく、地域移行という文言でよいか。

(保健体育課長)

- ・予算上の事業名は「地域移行」となっているが、地域の方に部活動指導員という形で連携してもらおうといったことも含んでいるため、内容としては「地域連携・地域移行」である。

③P. 8 部活動指導員配置事業関係

(委員)

- ・予算額 45,479 千円は前年度と同額か。

(保健体育課長)

- ・人数等は前年度と同じになっている。経費の負担が国：県：市町村で1：1：1となっているため、市町村で予算が確保できないと配置できない。市町村の要望を踏まえながら人数を計上しており、市町村の希望に添った金額となっている。

(3) 令和5年度スポーツ団体への補助金について

資料1 P. 10～12

■事務局説明（スポーツ振興課長、保健体育課長）

- ・資料に沿って説明

■質疑等

①P. 10 スポーツ少年団の育成関係

(委員)

- ・金額が小さく、これでは何もできないのではないかと。ずっとこの規模感の予算額なのか。

(スポーツ振興課長)

- ・研修会と会議の開催費であり、例年この額としているものである。

(委員)

- ・子どもが激減している中で、スポーツ少年団自体の存続について、実態はどうなっているか。

(スポーツ振興課長)

- ・現在、スポ少改革という言葉が使われている。スポーツ少年団には中学生まで入ることができるが、現状は小学校で卒団し、部活動やクラブチームに入っている。スポ少改革の流れの中で、高校まで続けられる仕組み作りをしようという案が日本スポーツ協会から出ており、それをスポーツ少年団の会議等で議論している。少子化に伴う規模の縮小化という実状があるが、子どもたちのスポーツ環境を整備する上で、スポーツ少年団は非常に大きなものであると考えている。国のスポ少改革を注視しつつ、県スポーツ協会等とも話をしながら活動に取り組んでまいりたい。

(委員)

- ・部活動の地域連携・地域移行においても、スポーツ少年団と総合型地域スポーツクラブという文言が上がっている。県スポーツ協会とも協議しながら、子どもたちのスポーツ環境の整備を進めてもらいたい。

②障害のある人への補助金関係

(委員)

- ・障害のある人への補助金を設けてほしい。例えば、障害者指導者への補助金等。研修会で障害者指導者に講演をしてもらったことがあり、そのとき色々な意見をいただいたが、一番は、大会のボランティアとスタッフが足

りないということだった。体と心の障害に対応できるボランティアの育成が必要と考える。

(スポーツ振興課長)

- ・障害者スポーツの指導資格を取るには期間も金額もかかるため、何とかならないかという意見をいただいている。機能回復や生きがいつくり等は障害福祉課が所掌し、アスリートの育成はスポーツ振興課が所掌している。障害福祉課と連携を取りながら、障害のある人がしっかり運動ができるような環境に向けて、各競技団体にも問題提起をしながら解決してまいりたい。

(障害福祉課長)

- ・ボランティア不足の意見について、障害のある人への理解を広めることが大切と考えており、あいサポーター運動を展開している。あいサポート研修という、障害のある人への合理的配慮に関する研修を進めるものである。今年度から県内の大学にも協力いただき、また企業の方にも参加してもらっている。コロナ禍で集合研修が受けにくい状況であることから、今年度、動画視聴方式も採用した。令和3年度は約1,000人程度だったが、今年度はこれまで約3,000人程度の方に研修を受けてもらっている。今後も意識の啓発に取り組んでまいりたい。

(委員)

- ・障害者スポーツの上級・中級・初級の指導者について、初級は岡山県で養成でき一番人数が多く、スポーツ推進委員にも多く取得していただき、地域でのスポーツの導入部門を担ってもらっている。
- ・養成は県がしてくれているが、活用は障がい者スポーツ指導者協議会に任されている。
- ・アスリートが練習できる場所が少ないという問題がある。一般の方と一緒に練習もしているが、トイレや入口の段差などの障壁がある。一緒に活動できる取組を進めたい。大会のボランティアは学校等をお願いするので、かなりの人数が来てくださるが、それ以外の例えばスポーツ教室のボランティアは少ない。研修会について、中級・上級にも補助金等があれば、参加しやすくなる。

③スポーツ環境の整備について

(委員)

- ・総合グラウンドでの練習中、車いすの人と一緒にすることも多いが、車いすの人が更衣できる場所がない。また、中学・高校生の荷物の置き場がない。練習環境はあるが、人数に見合った更衣室や、日陰になるような待機場所が少ない。そうしたことも含めて環境整備が進めば、ジュニアも含めて育成がしやすくなるし、選手の利便性も高まる。環境面での整備がさらに進めば、利用者も増え、強化も一層進むと考える。

(スポーツ振興課長)

- ・先日岡山武道館の改修工事が完成し、障害のある人も使いやすいトイレの整備や動線の確保、ロッカールーム、シャワーの改修など、誰もが使いやすいよう配慮した。その他の施設についても今後、改修予定があり、土木部とも情報共有の上、ご意見を今後活かしてまいりたい。

④中体連主催大会に地域クラブ活動も参加可能となることについて

(委員)

- ・中体連主催の大会に、地域クラブ活動等も来年度から参加できる。大会参加を希望するクラブからの問合せを受けている。その中で、指導者資格の問題がある。資格は個人が取るものではあるが、地域連携・地域移行に向けた環境を作っていく上で、何らかの補助があれば、より指導者資格が取りやすくなり、スポーツ環境の整備にもつながっていく。今後検討していただきたい。

(スポーツ振興課長)

- ・P. 4 「持続可能な一貫指導・支援システムの構築①指導体制の確立」の中で、資格取得への補助を行っている。競技団体からの推薦を通じてというものであるため、地域連携・地域移行とイコールではないが、国の動向を注視しながら、今後検討してまいりたい。

⑤総合型地域スポーツクラブ内で、新たなジュニア種目を立ち上げる場合について

(委員)

- ・地域連携・地域移行に際し、例えば、総合型地域スポーツクラブで中学生年代のチームを立ち上げる場合、助成事業があるか。

(スポーツ振興課長)

- ・総合型地域スポーツクラブ内で、新たなジュニア種目チームを立ち上げる場合について、県スポーツ協会が総合型地域スポーツクラブの育成や立ち上げの手伝いをしているところであり、県スポーツ協会と協議しながら今後については在り方を考えてまいりたい。

(委員)

- ・新たに立ち上げる際、講師の謝金がネックになる。また、平日の 16:00～18:30 という時間帯もネックになっている。ビジネスとして成り立たないと協力が難しい実状もあり、何かできないか検討をお願いしたい。

⑥P. 7 体育授業スペシャルサポーター派遣事業関係

(委員)

- ・体育の授業に地域の人が入ることはとても大切である。地域連携・地域移行に地域の指導者が関わることができればよい。運動のスペシャリストも

大切だが、地域の人が入りやすいスキームを検討してもらいたい。

(保健体育課長)

- ・「地域の子どもは地域で育てる」という流れがある。スペシャルサポーターは大学生にも力を貸してもらっている。地域の人に関わればよりすばらしいものになる。ぜひ、相談に乗ってもらいたい。

4 報告事項 資料2

(1) 岡山マラソンについて

■事務局説明（マラソン事務局参与）

- ・資料に沿って説明

5 閉 会

○文化スポーツ振興監あいさつ

- ・それぞれの立場からいただいた貴重な声を今後の施策展開に活かしてまいりたい。
- ・来年度以降、西日本初の開催となる令和7年国民スポーツ大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会の開催準備が本格的に始まる。西日本のモデル事例としてチャレンジしてまいりたい。
- ・第2次岡山県スポーツ推進計画においては、目標を「スポーツ立県おかやまの実現」から「スポーツ立県おかやまの発展」に変更し、県民一人ひとりが、より一層スポーツを楽しみ、スポーツを通じて地域の魅力を高めることができるように、各種施策に取り組んでいくこととする。